



暗記する

君たちが1年生の時に学習した「生物基礎」と「地学基礎」、今の3年生は「生物Ⅰ」と「地学Ⅰ」だった。これは、君たちが学校で学ぶ教科・科目の内容を規定している「学習指導要領」が変わったからだ。

最新の（最近の）学習指導要領では、伝え合う力、つまりコミュニケーション能力を養うことが、どの科目でも重視されるようになっている。国際化の時代を迎え、そういう力が要求されているのは確かだろう。ただ、注意したいのは、そういう力が「求められている」という言い方がされることが多く、一体「誰が」求めているのか？ということがあいまいにされていることである。国際社会だろうか？ いや、もしかしたら、日本をリードするエリートは少数いればよく、残りの大勢には、コミュニケーション能力を駆使して働く、素直で安価な労働力に育ててほしいと願っている経済界かも知れないのである。

…と、余計な話はともかく、最近は「意見を発表してみよう」とか「話し合ってみよう」みたいな学習活動に注目がいきがちで、その最たるものが「英語で英語の授業をする」みたいな安易な発想になっていて嘆かわしい。

＊

意見を人前でしっかり発表したり、ルールを守って話し合ったりする活動は確かに重要であるが、しかし、その発表される意見が評価に値するものになったり、話し合いが深まったりするためには、実はその意見を発表したり議論したりするメンバーの知識が、それなりのレベルにあることが求められるのは明

かだろう。「話し合い」ということで一時流行ったディベートも、ルールに従って話し合いを戦わせる部分に重点があるように見られがちだが、ディベートで一番大切なのは、実は議論に備えて資料を徹底的に調べあげる段階にあることは、専門家なら誰でもご存じのことである。

で、私が何がしたいのかというと、どんな学習にしろ、それに付随するどんな活動にしろ、自分の中に確実な知識がたまっていないかぎり、まったくお話にならないことなのである。さらにいえば、自分の中にたまった知識を結びつけ、有効活用することを可能にする「知のネットワーク」が構築されない限り、どんな学習も十分な成果を挙げはしないだろうということなのである。

では、知識を自分の中にため込むためにはどうしたらいいのか。それは、もう暗記しかないのである。「暗記しなくたって、今なら簡単に検索できるからいいじゃないか」と思っている人がいるかも知れないが、そういう人の頭の中には、決して「知のネットワーク」は形成されないことを認識すべきである。自分の頭の中に材料をため込まないかぎり、ネットワークは形成されないのである。

暗記は苦手だという人もいるが、そういう自己認識に安住してはいけない。レベルの高い学習の基礎は暗記である。そのことをしっかり認識して、「苦手だ」とか「暗記より思考だ（これは幻想に過ぎない）」などと考えずに、どの科目も、繰り返し繰り返しひたすら暗記に邁進してほしい。